

仲津留隆 (厚生労働省)
關 雅夫 (厚生労働省)
西郷 浩 (早稲田大学)
樋田 勉 (群馬大学)

「2次元コーホート生命表関数による人口動態の解明」……………廣嶋清志 (島根大学)

などがあつた。また、昨年度に引き続いて設けられた統計制度改革のセッションを含め、官庁統計に関係するセッションが多数設けられて様々な報告が行われたことも、今次大会の一つの特色であつたといえるであろう。 (石井 太記)

日本人口学会2006年度・第1回東日本地域部会

日本人口学会の2006年度第1回東日本地域部会が2006年9月16日、札幌市立大学看護学部桑園キャンパス (北海道札幌市) にて開催された。報告タイトルと発表者は下記の通りである。

1. 「戦前の沖縄県の死亡力と出生力は低水準だったのか?—1920~35年の分析を中心に—」
……………山内昌和 (国立社会保障・人口問題研究所)
2. 「新規学卒者と退職年齢層の人口比」 ……………清水昌人 (国立社会保障・人口問題研究所)
3. 「平成17年国勢調査要計表との比較による『日本の市区町村別将来推計人口 (平成15年12月推計)』の中間評価—北海道を中心として—」 ……小池司郎 (国立社会保障・人口問題研究所)
西岡八郎 (国立社会保障・人口問題研究所)
山内昌和 (国立社会保障・人口問題研究所)
4. 「札幌市の少子化—その特徴と要因」 ……………原 俊彦 (札幌市立大学)

1は、人口動態統計を利用して1920~35年の沖縄県の死亡数と出生数を推計し、当時の死亡力と出生力を評価したものである。2は、戦後における労働市場への参入者と退出者の人口比を地理的な視点で整理し、人口移動に与える影響について考察したものである。3は、2005年に実施された国勢調査の要計表を利用して、社人研が実施した『都道府県別将来推計人口 (平成14年3月推計)』と『日本の市区町村別将来推計人口 (平成15年12月推計)』の精度について検討したものである。4は、全国的にみて少子化の進んでいる札幌市について、人口学的要因と社会経済的要因に大別して検討したもので、札幌市の少子化対策への提言もなされた。

地域部会の特性を活かした丁寧なプレゼンテーションがなされ、参加者は少数であつたが、活発な議論が交わされた。 (山内昌和記)

第79回日本社会学会大会

第79回日本社会学会大会は京都市の立命館大学において、10月28日~29日の両日にわたって開催された。一般研究報告とテーマセッション合わせて56部会の他、ポスターセッションや国際交流委員会ラウンドテーブルなどもプログラムに上がった。本研究所の職員からは、以下の一般研究報告があつた。

た（プログラム掲載順）。

- 「出生力の指標理論」……………鈴木 透（国立社会保障・人口問題研究所）
「外国人に対する意識の規定要因—ESS と JGSS の 比較分析—」
……………小島 宏（国立社会保障・人口問題研究所）

会員総会では学会の国際化に重点を置き、2014年の世界社会学会議の日本への招致を目指すことが提案され、了承された。シンポジウムは「人口減少社会のゆくえ」「岐路に立つ社会学教育」の2本で、前者では本研究所の岩澤美帆主任研究官がコメンテーターをつとめた。（鈴木 透記）

日本地域学会第43回（2006年）年次大会

日本地域学会第43回（2006年）年次大会は、2006年10月7日（土）～9日（月）、千葉商科大学において開催され、研究報告等が行われた。地域学という分野の性質上、人口に関係する研究は少ないが、今大会では「人口」をテーマとするセッションも設けられた。このセッションは8日（日）の午前に開かれ、構成は次のとおりであった。

- 「国内長距離人口移動の決定因の時期的変化について」……………伊藤 薫（岐阜聖徳学園大学）
「都市人口の空間分布に関する計量分析」……………加藤尚史（名古屋大学）
横地浩紀（名古屋大学）
「中国の省間所得格差と人口移動—31省モデルによる分析—」
……………坂本 博（国際東アジア研究センター）

伊藤氏は、日本を10の地域に分けて1955年から2000年までの人口移動を分析し、所得および自然・社会環境アメニティの影響を調べた。加藤氏と横地氏の研究については、横地氏が口頭発表を行い、人口分布を表すモデルを提示して名古屋市における適合性を示した。坂本氏は、中国における地域間の所得格差に注目し、人口移動が経済に及ぼす影響をシミュレーションによって分析した。なお、これらの3報告のそれぞれに対して討論者2名が予め選ばれており、活発な質疑応答が行われた。筆者は横地氏の発表において討論者を務めた。（今井博之記）

2006年人文地理学会大会

2006年人文地理学会大会が、2006年11月11日～13日、近畿大学本部キャンパス（大阪府東大阪市）において開催された。口頭77件、ポスター4件の計81件の一般発表、および4件の特別発表が行われた。人口関連分野については、移民や都市に関連したものをはじめとする報告がなされた。以下、主なものについて発表題目を紹介する。

- 「移民問題に表象される現代スペイン社会の変動」……………長岡 顕（明治大学）
「台湾における少子化と教育問題」……………塩川太郎（中山医科大学）
「ラオス農村の出生力変動と土地利用・人口移動」